

第 6 回すばる小委員会議事録

日時：10月14日（火）午前11時より午後5時(JST)

場所：国立天文台 解析研究棟 TV 会議室（ハワイ観測所、京都大学と TV 会議接続）

出席者：青木和光、有本信雄、市川隆、伊藤洋一、川端弘治、菅井肇、田村元秀、

浜名崇、松原英雄、本原顕太郎、山下卓也、吉田道利（以上三鷹）

臼田知史、林正彦（ハワイ観測所から TV 会議参加、所長は AM のみ）

太田耕司（京都大学から TV 会議参加）

欠席者：高遠徳尚

書記：吉田千枝

1 戦略枠 SEEDS の観測開始時期について

HiCIAO+AO188 の最初の試験観測は 12/23 に行われる予定である。SEEDS チームは S09A 期からの観測開始を希望しているが、そのためには 11 月上旬に行われる S09A 採択会議において、性能評価を待たずに観測割付を行わなければならない。2008 年 3 月に SAC が提出した戦略枠審査最終報告書にも「正式採択は装置の性能試験後」と明記しており、観測開始を認めるか否か慎重な議論を行った。その結果、共同利用時間を用いたサイエンス観測開始はやはり装置の性能評価後であるべきこと、観測所は必要なエンジニアリング観測の機会を早期に SEEDS チームに与えるよう SAC から提言することを決定した。SEEDS の観測開始は S09B 期（以降）になる。なお装置の性能評価には SAC 委員 1 名、及び観測所員 1 名が当たることとする。

2 所長報告

- ・ Gemini との WFMOS 交渉の 1 回目をハワイに於いて 10 月 28 日に行う。
- ・ 赤外装置の WS は三鷹で 12 月 8 日に開催することとし、間もなくアナウンスを出したい。
- ・ 1 月の UM では WFMOS によるサイエンスと Gen2（第 2 期制御系）をテーマとしたい。WFMOS は自分に関係ないと思っている人が多いようだが、そういう人たちにすばるの将来を考えてほしい。またすばるの制御系は 5 年以内に新システムに移行するので、どういう機能が欲しいかなど、ユーザーの希望を聞きたい。

3 1 月の UM について

世話人は SAC から有本委員、青木委員の 2 名、観測所から高見副所長と SS1 名、そのほかに WFMOS 関係 1 名、光天連から 1 名、三鷹光赤外の若手 1 名に入ってもらって準備を進める。内容は後半に WFMOS, HSC を含め、Gemini やプリンストン大からの参加者も想定する。

4 光赤外専門委員会への提言案について

委員長：SAC と光赤外専門委員会の棲み分けが懸案となっていたが、SAC はすばるを軸に将来計画を考えていくので、一つの答えとして今回の提案をしたい。

各委員が分担執筆した内容をここで確認・改訂し、第 1 案として 10 月 16 日の光赤外専門委員会に提出し、最終的には 3 月を目途に公表したい。

議論の結果、光赤外専門委員会への報告を別紙のようにまとめた。また下記のようなコメントが委員からあった。

- ・ TMT への参加は、国際社会の中で日本が対等にやっていける力をつけるチャンスだろう。
- ・ 人事交流については、精神論だけでなく具体的な手はずが必要だが、そういった議論をどこですべきなのかが自明ではない。
- ・ 装置開発について、今の日本では研究者の自発的な活動に限られているが、それを支援・奨励するような枠組みを作れないだろうか？
- ・ 科研費であれば、外国の望遠鏡時間の買取が可能だろう。利用可能な望遠鏡とその夜数の調査を行うとよい。
- ・ 普及活動について、4D シアターは大変好評である。すばるを使った短時間のビデオ教材があって、利用状況などがウェブで参照できるとよい。

5 WFMOS 交渉について

日本側の交渉代表者に山下委員が決まったことが報告された。Gemini 所長から提示された交渉項目の私案について問題となる点を議論し、懸念事項として以下の項目が挙げられた。

- ・ WFMOS 搭載後はすばるの共同利用装置になることをまず最初に確認すべきだ。
- ・ 日本側の貢献分は WFMOS をすばるに載せることとその後の運用をすることで、それが WFMOS を製作する Gemini 側と等分の貢献になることを確認しておくべきだ。
- ・ 日本側の WFMOS チームを早急に立ち上げる必要がある。

- ・ 現在 2 チームが WFMOS の設計を進めているが、すばるのインターフェースがきちんと伝わっているのか？そうでないと設計のやり直しが必要になる。
- ・ Gemini 側は WFMOS だけ別の TAC を設置したいようだが、これは受け入れられない。個別の共同利用は従来の時間交換の枠組で行う。大型サーベイはすばるの戦略枠として行うことになるはずで、Gemini 側が審査に加わることはあり得ない。

6 報告事項

- ・ 京都会議は日本人参加者が少ないのではないかと懸念されるので、参加を呼びかけてほしい。
- ・ アジア冬の学校、HSC 研究会については担当者が準備を進めている。
- ・ VLT 利用に関するアンケートにはこれまでのところ 19 件の回答があり、時間交換については賛否両論である。

==== 資料=====

- 1 戦略枠最終審査報告書（再配布）
- 2 光赤外専門委員会への提言案 「2020 年へのすばるの戦略」
- 3 「2020 年へのすばるの戦略」概観図
- 4 WFMOS 交渉事項 D.Simons 氏私案（再配布）
- 5 第 5 回すばる小委員会議事録

光赤外専門委員会への提言案
 --2020年へのすばるの戦略 “天・地・人”-- 2008.10.16
 すばる小委員会

